

子どもたちに保育の質を確保するため補助金削減の中止を求める声明

京都市は令和4年度から民間の保育園に対する補助金の削減を進めることを決めました。総額は約13億円、約80%の保育園が削減対象となり、2~3000万円を超える削減となる園も少なくありません。

保育制度に対する私たち保護者の願いは、大きく分ければ、保育園に入れること、安心できる保育の質の確保、経済的な負担の軽減の3点です。これらの願いは、保護者の置かれた立場によって優先度が変わりうるものですが、なかでも子どもの日々の生活に関わる「保育の質の確保」は最も重要であり、子どもたちが保育園で健やかに成長できることは、保護者にとって一番の願いです。そして、日々の生活を通じて最も影響を受ける子どもたちは、自分から声を上げることはできません。

今回の補助金の削減は、例えば2000万円の削減となる園では4、5人分の保育士の給与が無くなってしまふほどの大きな影響があります。日々献身的に子どもたちの健やかな成長を支えてくださる保育園の先生方に対して、京都市がどうしてこのような対応されるのか保護者として全く理解ができません。保育園の先生方はコロナ禍でも感染リスクの不安を抱えながら、子どもたちの健やか成長と保護者の就労を支えてくれました。

また、特にベテランの先生が多い保育園ほど減額が大きくなります。ベテランの先生方は子育て経験のある方も多く、保護者としていろんな相談ができる、かけがえのない本当に頼れる存在です。今回の補助金の削減はベテランの先生方の存在を軽視するもので、保護者として全く賛同できません。若手の先生たちもこれまでのような昇給の見込みがなくなり、早期退職を選択するようになれば、将来に向けても質の高い保育が失われていくことになります。

さらに、補助金の削減によって、給食の質が下がったり、アレルギー対応が難しくなったり、保育士の余裕が無くなり障害児保育の受け入れが難しくなったりするなど、ほかにも様々な影響が考えられます。

保育学の研究では、保育の質は先生たちの労働条件に左右されると言われています。今回の補助金削減は京都市が実施する公的保育の質の低下を招き、子どもたちに悪影響を及ぼします。しかしながら、京都市から保護者への説明は一切ありません。

私たち保護者は、京都市に対して、令和4年度からの補助金の削減を中止することを強く求めるとともに、保育園の先生たちが将来に亘り安心して働き続けられるように、昇給を保障する仕組みを作ることを求めます。

2022年3月31日

京都市保育園保護者会連合協議会